

平成 19 年度 第 7 回教育研究会議議事録

1 . 日 時 平成 19 年 10 月 9 日(火) 13 時 30 分 ~

2 . 場 所 学術交流会館特別会議室

3 . 出席者

南(理事長,議長)

中西、奥野、藤岡

八尾

安保、切畑、寺岡、田中、黒田、青山、林、石井

辻川、小崎、上田、松川、寺迫、高見沢、今木、山口、辻

< オブザーバー >

北條

[審議事項]

1 . 大学院後期課程学生に関する課題と今後の方策について

大学院での教育課程の実質化が推進される中、本学は後期課程への進学者を増やし、優秀な研究者を育てるため、博士後期課程の学生の現状と問題点を整理とともに、学生の進学、研究を進めるための支援方策が提案され、来年度からの実施を目指し、今後検討を進めることで了承された。

2 . 公立大学法人大阪府立大学研究費の取扱いに関する規程(案)について

平成 19 年 9 月 11 日開催の第 6 回教育研究会議において、既に説明がなされていた「公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく対応の類型と具体的な取組み(案)について」が、今回、異議無く了承された。

[報告事項]

1 . 博士課程学生のフェローシップ制度について

文部科学省が来年度から導入予定の、「若手研究者挑戦支援フェローシップ制度」について、説明がなされた。ポスドクなどのキャリアパスを多様化するため、海外や企業、異分野研究などに挑戦する後期博士課程学生を対象とし、月額 15 万円の支援を予定している。本学は、この制度における採択を目指し、取組みを開始することとなった。

2．質の高い大学教育推進プログラムについて

教育の質の保証を進めるため、平成 20 年度の国家予算において、質の高い大学教育推進プログラム（仮称）として 173 億円の予算要求が行われていることが説明された。

3．大阪府立大学「Web博物館」（仮称）への協力（案）について

本学ホームページのリニューアルの一環として、来年度新たに、本学が教育・研究の歴史の中で蓄積してきた貴重な学術資料及び現在の教育・研究活動における特徴のある資料（装置含む）を「Web博物館」（仮称）と称し、学内外に広く情報発信することで本学のプレゼンスをより一層高めるため、Web上で公開していく旨説明がなされた。

あわせて、学内の各研究科長・学部長に対し、資料等の状況把握のため、文献・写真・データ・機器等の情報収集について協力要請がなされた。

4．名誉教授称号授与（平成 19 年 9 月 30 日付け）について

大阪府立大学名誉教授称号授与規程第 2 条第 1 項第 1 号該当により、平成 19 年 9 月 30 日付けで、工学研究科の角田敏一教授に名誉教授称号が授与された旨報告された。

5．平成 19 年度第 2 回外国人留学生委員会（9/27 開催）の概要について

平成 19 年 9 月 27 日に開催された、第 2 回外国人留学生委員会において、（1）留学生の受入れ状況、及び（2）留学生の宿舍入居状況についての報告がなされた。協議事項として（1）留学生に係る保証人についての協議が行われた。

留学生の入学時の保証人については廃止すること、留学生宿舍等大学学生寮については、滞納者に対してペナルティを設定して保証人を廃止することなどが検討された旨説明された。

6．平成 19 年度第 3 回入学試験運営委員会（9/11 開催）の概要について

平成 19 年 9 月 11 日に開催された、第 3 回入学試験運営委員会において、（1）第 2 回入試あり方部会、（2）第 2・3 回入試広報部会の概要、及び（3）オープンキャンパス 2007 の結果等が報告された。

また、入学試験の過去問題利用に関しても議論された旨説明があった。

7．旧府大生の 9 月卒業について

平成 17 年の 3 大学統合以前の、旧大阪府立大学から 7 名、大阪女子大学から 7 名、大阪府立看護大学から 1 名の学生が平成 19 年 9 月に卒業した旨報告がなされた。

8．後期転学部選考の実施について

平成 19 年 11 月から行われる後期転学部選考について、理学部、経済学部、看護学部

で実施される旨の報告がなされた。転学部時期は、平成 20 年 4 月 1 日であり、出願受付期間は、平成 19 年 11 月 1 日から。

9 . 2007 入試ガイダンスの開催について

平成 19 年度の学園祭（杏樹祭・白鷺祭）に合わせて、本学への進学を希望している受験生等を対象に、入試に関する疑問・質問等に各学部単位で教員が面談形式（マンツーマン）で対応する旨説明がなされた。

10 . 学生センター通信（2007 第 8 号）について

2007 年 10 月 1 日発行の学生センター通信（2007 第 8 号）について、本年 8 月に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 G P）」に採択された「Web 学生サービスセンター」構想や、鳥人間コンテストのタイムトライアル部門での優勝等の記事を掲載している旨の報告がなされた。